

**健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）**  
**-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-**

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
1. SIDS家族の会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話を用いた24時間受付可能な電話相談システムを構築する</li> <li>・SIDSが発生した家族に医療関係者から簡単に手渡せるようなメンタルケアのためのリーフレットを改訂する</li> <li>・9月にオープンフォーラムを開催する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンフォーラム</li> <li>9月15日開催 群馬県社会福祉総合センター 127名参加</li> <li>講 演:「SIDSを取り巻く医療の動向」仁志田博司(東京女子医科大学)</li> <li>講 演:「医学アドバイザーの役割」 峯真人(峯小児科医院)</li> <li>講 演:「悲しみのための処方箋」 平山正実(東洋英和女学院大学)スピーチ:赤ちゃんを亡くした家族4名の体験談</li> <li>隔年開催のオープンフォーラム、第5回にして初めて地方都市で開催</li> <li>・近畿地区主催講演会 7月20日開催 大阪市立東淀川勤労センター 63名参加</li> <li>講 演:「流産・死産・新生児死後の妊娠」木戸口公一(大阪府母子保険総合医療C)</li> <li>・2月23日 第8回SIDS学会に講演者、パネリスト参加 大阪市立医療センター</li> <li>・千葉市より小児医療改善プロジェクトへの協力要請があり、参加中</li> <li>・遺族のためのミーティング 全国で35回開催 延べ約370名参加</li> <li>・E-mail相談窓口設置 電話相談窓口の補完として全国21名でE-mailの相談に応じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SIDS国際会議への参加 8月31日から9月4日開催 イタリアのフィレンツェ2006年の国際会議を日本で開催するための立候補を行う</li> <li>日本での家族の会の取組みを紹介:SIDSだけでなく流産、死産、新生児死等で赤ちゃんを亡くした家族の支援を行っている点が、世界の家族の会の中でも特徴的</li> <li>・遺族のためのミーティング開催 電話相談と並ぶ遺族のメンタルケアのメイン活動であり、12支部で年間40回程度を目標</li> <li>・会報発行 年4回</li> <li>・ビフレンダーの育成 ビフレンダーコース及びビフレンダーミーティングの開催</li> <li>・講演会開催(近畿地区など)</li> <li>・SIDS、流産、死産等で赤ちゃんを亡くした親へのケア体制の有無等について病院や行政機関への全国的なアンケートを行う</li> </ul>
2. (社)恩賜財団 母子愛育会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次のような研修事業を実施する</li> <li>母子愛育会: <ul style="list-style-type: none"> <li>保健所・市町村の医師、保健婦、助産婦、看護婦、栄養士等を対象に地域母子保健講習会(5回)</li> <li>病産院の医師、助産婦、看護婦を対象に周産期医療研修(4回)</li> <li>保健所・市町村の医師、保健婦、助産婦、看護婦、栄養士、相談員等を対象に母子保健セミナー(6回)(民間職場の職員も含む)</li> <li>愛育班員等研修会(2回)地方研修・全国愛育会支部にて開催の愛育班育成者、愛育班員研修(15回)</li> </ul> </li> <li>子ども家庭総合研究所 <ul style="list-style-type: none"> <li>「健やか親子21」など国の政策課題に対応する9つの研究課題を設定し、研究に取り組んでいる</li> <li>平成13年11月を目途に「子ども総研式・子育て支援質問用紙」を刊行する</li> <li>子ども総研のホームページ中に「愛育ネット」を設け、「健やか親子21」の解説、国や地方の取組みをネット上で紹介している</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子愛育会</li> <li>左記の通り、～ について実施する</li> <li>子ども家庭総合研究所</li> <li>左記の通り実施する</li> <li>については、「子ども総研式・子育て支援質問用紙」刊行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H13年度に準じた計画を実施予定</li> </ul>

**健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）**  
**-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-**

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
3.(財)家庭保健生活指導センター	13年度は記載なし	母子保健相談を休日開催する休日相談事業を27ヶ所で行った	平成13年度と同規模の開催を行っていききたい
5.子どもの心・体と環境を考える会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校へ小児科医が頻回に訪問し、授業の観察研究と生徒や教師の健康相談に応じる</li> <li>・インターネットメーリングリストを利用した他業種間の情報交換と学術的研究グループの結成</li> <li>・患者や生徒への質的方法による情報収集と調査研究</li> <li>・患者ボランティア団体結成</li> </ul>	<p>第3回学術大会 開催 12月22日 名古屋国際会議場 約100名</p> <p>概要:講演「健康な学校」、2つのシンポジウムや「子どもの健康と学校」「アレルギーと学校生活」を行った。医療・教育分野からさまざまな職種の専門家が子どもの健全な生活について話し合った。</p> <p>研究会誌「子どもの健康科学」第2巻 第1号発行</p> <p>概要:第2回大会のシンポジウム「不登校の子ども達から学んだこと」「医療と心」を掲載した研究会誌200部発行、配布した。</p> <p>テーマ別研究会「質的研究」2月23日 昭和大学医学部 参加者約30名</p> <p>概要:日本の研究で最も遅れている「質的研究」の手法について研修会を行い、会員の研究手法の向上を図った。</p>	<p>東京において第4回学術大会「新しい世紀を担う子どもの健全な育成のために」をテーマに2日間開催する。</p> <p>会員の質的向上を目指した研修会「テーマ別研究会」において、研究や実践で役立つ子どもに関するテーマを取り上げ、定期的に開催する。</p> <p>研究会誌、第3巻 1号、2号を発刊する。</p>
15.全国保健所長会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国保健所長会に設置している地域保健推進委員会で、全国各地で取り組みを行っている個別事業について把握するとともに、課題解決に向けての方策を検討する</li> </ul>	<p>(1)「小児科救急医療確保のための管内各市及び民間医療施設を包括する連携システムに関するモデル事業」(健康科学総合研究事業)の実施  (埼玉県狭山保健所長 正宗 弘道)</p> <p>目的:埼玉県西部第一(西)医療圏内(狭山保健所及び所沢保健所管内)における小児科救急医療システムの構築</p> <p>結果:西部第一(西)地域保健医療協議会に小児科救急専門部会の設置、小児科病院群輪番制運営要領の制定等により、小児科救急医療システムが稼働した</p>	<p>(1)「小児科救急医療確保のための管内各市及び民間医療機関施設を包括する連携システムに関するモデル事業」の実施</p> <p>目的:平成13年度の事業の評価を行う</p>
17.全国保健師長会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子支援連絡会議(虐待予防、ハイリスク児のフォローの徹底、子育て不安を訴える母への支援等)</li> <li>・地域リーダーの研修</li> <li>・低体重及び不慮の事故等による実態把握するための調査を実施する</li> </ul>	ハイリスク児フォロー体制等について検討	小児保健医療水準の維持・向上のための環境整備を図る。小児慢性疾患児支援、SIDS対策等地域ケアの総合調整の推進を図る 未熟児及び不慮の事故等の実態把握をする。

**健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）**  
**-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-**

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
<p>19.NPO難病の          こども支援全国          ネットワーク</p>	<p>・ネットワーク電話相談室の運営(月～金曜日          11:00～15:00)する、必要に応じて、家庭を訪問して          関係機関とのコーディネート等必要な支援を行う          ・プレイリーダー(遊びのボランティア)養成講座の          開設、プレイリーダーを病院・施設に派遣する。病          弱教育担当者対象に、病弱教育セミナーを開講す          る          ・サマーキャンプ"がんばれ共和国"を全国4ヶ所で          建国する。参加者は家族・ボランティアを含め600          名を予定している          ・親の会連絡会の主宰の他、研修会の開催、日本          小児科学会会場での展示・PRコーナーの開設、新          しい会の設立への支援を行う          ・シンポジウムの開催、機関誌「がんばれ！」を発          行する、小児難病親の会ハンドブック2002を発行          する、子どもを亡くして親御さんの支援、難病の子          どもを知る本の編集、その他</p>	<p>1.電話相談室の運営(月曜日 金曜日 11:00 - 15:00)          病気や障害のある子の家族から電話による相談を受け          た。また、親の会の情報提供を行うとともに、同病の家族          の出会いを求める家族には登録を勧めて多数の家族の          紹介をしてきた          2.プレイリーダー養成講座の開設          プレイリーダー(遊びのボランティア)を養成し、病院等          での活動を援助した。講座は13年度は4回開設し28名が          修了した          3.病弱教育セミナー2          003の開催          主に病弱養護学校の教員を対象に、病気や障害のある子          の理解のためのセミナー。受講者は50名          4.サマーキャンプ"がんばれ共和国"          病気や障害のある子と家族を対象としたサマーキャンプを          全国4ヶ所で開催した          あしがらキャンプ:7/27 7/29 神奈川県大井町          七夕キャンプ:8/10 - 8/12 宮城県蔵王町          おいでんぼうらい:8/17 - 8/19 愛知県鳳来町          がんばれ共和国in九州:8/24 - 8/26 大分県湯布院町          5.親の会活動支援          病気や障害のある子を親たちの会41団体が参加して「親          の会連絡会」をもち、情報交換、研修会活動等を行ってい          る。13年度は定例会が4回、臨時の会合が4回、他に合          宿研修旅行、日本小児科学会等での展示PRコーナーの          開設、小児難病親の会ハンドブック2002の製作と全国配          布を行った          6.こどもの難病シンポジウムの開催          6月9日「子ども達が生き生きとする小児病棟を考える」シ          ンポジウムを開催した。厚生労働省藤崎母子保健課長か          ら「健やか親子21計画」について、参加者へその概要の          説明もしていただいた。参加者は300名だった。山城雄一          郎順天堂大学教授の基調講演の他、チャイルドライフスベ          シヤリスト、宮城こども病院、成育医療センターについてシ          ンポジストが講演した</p>	<p>1.電話相談室の運営(月曜日 金曜日 11:00 -          15:00)          平成14年度は第二種社会福祉事業登録を行う          2.サマーキャンプ"がんばれ共和国"の開催          全国4ヶ所で、患児・家族・ボランティア等約700名          が参加する          あしがらキャンプ:8/2 8/4 神奈川県大井町          七夕キャンプ:8/9 - 8/11 宮城県蔵王町          おいでんぼうらい:8/16 - 8/18 愛知県鳳来町          がんばれ共和国in九州:8/16 - 8/18 大分県湯          布院町          3.親の会活動支援          病気や障害のある子を親たちの会41団体が参加          して「親の会連絡会」をもち、情報交換、研修会活          動等を行っている。14年度は定例会を4回予定す          るほか、合宿研修旅行、日本小児科学会等での展          示PRコーナーの開設等を予定している          4.プレイリーダー養成講座の開設          プレイリーダー(遊びのボランティア)を養成し、病          院等での活動を援助する。講座は14年度は4回          開設を予定している          病弱教育セミナー2003の開催          主に病弱養護学校の教員を対象に、病気や障害          のある子の理解のためのセミナー。受講者は50          名          5.こどもの難病シンポジウムの開催          6.「君に伝える 病気のこと ともに歩むための          インフォームドコンセント」を6月1日順天堂大学有          山講堂で開催する</p>

**健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）**  
**-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-**

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
20.(社)日本医師会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成13年度乳幼児保健講習会の開催</li> <li>・乳幼児保健検討委員会開催「会長諮問:乳幼児の健全な心の発達に果たす医師及び医師会の役割 - 育児支援を含めて - 」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児保健委員会</li> <li>・会長諮問「乳幼児の健全な心の発達に果たす医師及び医師会の役割 - 育児支援を含めて」に関する報告書作成</li> <li>・概要:乳幼児期の心の健全発達の重要性を再認識し、子どもの心を育てていくための医師個人の役割、地域医師会としての取り組みのあり方を提言</li> <li>・平成13年度乳幼児保健講習会 平成14年2月17日(土)</li> <li>・テーマ「産婦人科医・小児科医地域連携事業の普及・発展をめざして - 出産前小児保健指導(プレネイタル・ピジット)モデル事業 - 」</li> <li>・小児救急医療体制のあり方に関する検討委員会(プロジェクト)報告書作成</li> <li>・概要:小児救急医療の問題解決のために、小児科医の増員、医師養成機関の教育体制整備、また、小児救急医療体制の整備充実と診療報酬制度の改善をあげている</li> <li>・麻しん予防接種推進ポスターキャンペーンの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児保健委員会開催</li> <li>・会長諮問「乳幼児が心身ともに健やかに育つための諸課題(地域における連携、病後児保育のあり方等)」に関する検討</li> <li>・平成14年度乳幼児保健講習会 平成15年2月16日(土)</li> <li>・テーマ「育児と仕事を両立できる社会環境作りを目指して」</li> <li>・麻しん予防接種推進ポスターキャンペーンの実施</li> </ul>
24.(社)日本看護協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「喫煙対策検討委員会」の運営</li> <li>・各地方自治体・医療実施機関等の母子保健への取り組み支援</li> <li>・まちの保健室・訪問看護ステーションにおける母子相談モデル事業の実施</li> <li>・看護の日における21のキャンペーン活動</li> <li>・ナースセンターにおける保健医療福祉関係機関へのマンパワー支援</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性疾患児・障害児の療育環境の整備、在宅支援体制に関する検討</li> <li>・訪問看護ステーションを拠点とする病児保育の検討</li> </ul>
25.日本公衆衛生学会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第60回総会(高松市)のシンポジウムの中に「健やか親子21」に関する演題を組み入れ、会員の理解を深める・本学会の「地域保健委員会」において「健やか親子21」に関する本学会の今後の取り組み案を検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第60回総会(平成13年10月31日～11月2日、香川)において、健やか親子21の推進を意識したシンポジウムや教育講演等を企画し、多くの参加を得た。当該課題に関する主な企画は下記のとおり</li> <li>・シンポジウム「ヘルスプロモーションの現状と課題」の中で、「健やか親子21」の推進についても重要なテーマの一つと位置づけ、発表と討論が行われた</li> <li>・第60回総会記念ブースを設置したところ、地域における「健やか親子21」の推進に関する研究班(厚生労働省子ども家庭総合科学研究)からの出展があった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第61回総会(平成14年10月、埼玉)の分科会において、当該課題に関するミニシンポジウム等を企画する</li> </ul>

**健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）**  
**-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-**

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
27.(社)日本 歯科医師会	<p>・第50回母と子のよい歯のコンクールの実施(3歳 児歯科健康診断時のよい歯の母子の中央表彰)</p> <p>・歯の衛生週間の実施(例年6月4日から10日ま での1週間。歯科保健関連の団体と協調)</p>	<p>第50回母と子のよい歯のコンクールの実施(3歳児歯科健 康診断時のよい歯の母子の中央表彰)</p> <p>厚生労働省と日本歯科医師会の主催による「第50回母と 子のよい歯のコンクール」中央審査会が平成13年9月4 日(火)に行われ、写真・顎模型・関係書類等による厳正な 審査の結果、下記の優秀者6組を決定した。この審査会 では、平成12年度に行われた全国の3歳児歯科健康診 査の受診者(平成12年度受診者数:104万6千人)のうち、 地方審査を経て、各都道府県から推薦のあった母子35組 の中から優秀な6組を選出したものである</p> <p>なお、優秀者母子6組に対する厚生労働大臣表彰並びに 日本歯科医師会会長表彰は、平成13年10月27日(土) に鹿児島県文化センター(鹿児島県鹿児島市)で開催され た第22回全国歯科保健大会式典において行った</p> <p>歯の衛生週間の実施 平成13年度も例年どおり6月4日より同10日まで歯の衛 生週間を実施した</p> <p>本会では共催の厚生労働、文部科学両省と打合わせの 上、13年度の標語を「歯がつくる こころの元気 からだの 元気」、重点目標は「地域に根ざした8020運動の展開」と 定める等、実施要領を作成し、各都道府県に通知した</p> <p>また、歯の衛生週間のポスターを日本歯磨工業会の協力 を得て28万枚作成、会員及び都道府県歯科医師会、関係 団体等に送付した</p> <p>母子歯科保健推進協議会 母子保健に関する法人格を持つ全国的組織である諸団体 との意思の疎通を図るために、昭和52年に本協議会を設 置し、地域社会における歯科保健事業の推進を目指して 毎年1回開催している</p> <p>平成13年度は、平成14年3月27日(水)に開催し、本会 の推進する歯科保健事業に関し協力を要請するとともに、 母子歯科保健の推進について懇談した</p> <p>なお、母子保健推進会議の母子保健推進員向けの機関 紙「母推さん」に平成14年度から歯科保健に関するペー ジ「8020の里」の創設と原稿の提供について依頼があ り、地域保健委員会で対応することとした</p>	<p>・第51回母と子のよい歯のコンクールの実施(3歳 児歯科健康診断時のよい歯の母子の中央表彰)</p> <p>厚生労働省と日本歯科医師会の主催による「第51 回母と子のよい歯のコンクール」中央審査会が平 成14年9月3日(火)に行い、地方審査を経て各都 道府県から推薦のあった母子の中から優秀な6組 を選出する</p> <p>なお、優秀者母子6組に対する厚生労働大臣表彰 並びに日本歯科医師会会長表彰は、平成14年1 月9日(土)に静岡市民文化会館で開催する第2 3回全国歯科保健大会式典において行う</p> <p>・歯の衛生週間の実施 平成14年度も例年どおり6月4日より同10日まで 歯の衛生週間を実施する</p> <p>本会では共催の厚生労働、文部科学両省と打合 わせの上、14年度の標語を「じょうぶな歯 健康づ くりの 第一歩」、重点目標は「地域に根ざした8020 運動の展開」と定め関係団体、各都道府県に通知 するとともに歯の衛生週間のポスターを日本歯磨 工業会の協力を得て、会員及び都道府県歯科医 師会、関係団体等に送付した</p> <p>・母子歯科保健推進協議会 母子保健に関する法人格を持つ全国的組織であ る諸団体との意思の疎通を図るために、昭和52 年に本協議会を設置し、地域社会における歯科保 健事業の推進を目指して毎年1回開催している</p> <p>[加盟団体] (社)母子保健推進会議、(社)全国保健センター連 合会、(社)日本家族計画協会、(社)母子衛生研究 会、(財)日本母子衛生助成会、(社)日本栄養士 会、(財)日本食生活協会、(財)日本公衆衛生協 会、(社)全国私立保育園連盟、(社会福祉法人)恩 賜財団母子愛育会、(社)日本歯科衛生士会、(社) 日本歯科医師会</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）  
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
27.(社)日本 歯科医師会		[加盟団体] (社)母子保健推進会議、(社)全国保健センター連合会、(社)日本家族計画協会、(社)母子衛生研究会、(財)日本母子衛生助成会、(社)日本栄養士会、(財)日本食生活協会、(財)日本公衆衛生協会、(社)全国私立保育園連盟、(社会福祉法人)恩賜財団母子愛育会、(社)日本歯科衛生士会、(社)日本歯科医師会 第20回保育所(園)・幼稚園表彰の実施 4～5歳児に及ぼすう蝕の影響性に鑑み、保育所(園)・幼稚園のう蝕の早期処置を勧めるとともに歯科保健指導が徹底している保育所(園)・幼稚園からの参加申し込みを受け、夏休み前と後の2回にわたる歯科健診の結果を、都道府県歯科医師会を經由して提出された調査票に基づき審査の上、「優秀」「努力」「参加」の各賞を決定し表彰することとしている 第20回は、230所(園)の参加があり、審査の結果、優秀賞が55所(園)、努力賞が117所(園)、参加賞が58所(園)であった	・第21回保育所(園)・幼稚園表彰の実施 4～5歳児に及ぼすう蝕の影響性に鑑み、保育所(園)・幼稚園のう蝕の早期処置を勧めるとともに歯科保健指導が徹底している保育所(園)・幼稚園からの参加申し込みを受け、夏休み前と後の2回にわたる歯科健診の結果を、都道府県歯科医師会を經由して提出された調査票に基づき審査の上、「優秀」「努力」「参加」の各賞を決定し表彰することとしている
31.(社)日本 小児科医会	・小児救急医療体制のあり方を検討するために、会長諮問の委員会を発足させる ・小児診療報酬のうちで、特に病院小児科・NICU、休日・時間外の診療費の増額に取り組む ・麻疹の摂取率向上をPRするポスターを会員に配布し、それを用いて母親の啓蒙に努める	・小児救急医療体制のあるべき体制について委員会で討議し、委員会案を作製した ・麻疹の接種率の向上を目指して、ポスターを作製し、関係各位に配布した ・全国の麻疹ワクチン接種無料化と接種率向上の達成の指導強化を「厚生労働省」に要望する署名運動を行い、2.1万名の署名を提出した	・小児救急医療に対しては「日本医師会」と協調して行動する ・麻疹ワクチンの接種率を全国各地で調査する 「子どもを煙害から守ろう」の運動を展開するためにポスターと禁煙のパンフレットを作成し、全会員に配布する
32.(社)日本 小児科学会	・大学における小児学教育の実態を調査し、改善策を検討、提案する ・医学生に対し、小児科医確保のための積極的広報活動を行う ・卒後臨床研修における小児科カリキュラムの充実を図る ・小児科専門医制度の移行へ向けて従来の認定医のための到達目標を改訂する ・小児総合医療施設の教育研修機能の実態を調査し、その充実を図る ・女性医師の勤務実態について調査する ・平成14年度の診療報酬改訂に向けて、病院小児科建て直しのための対策を検討し、要望する ・地域を選んで、適正な小児救急医療施設数、小児救急に関する小児科医数、小児救急医療支援事業の効率の運用を検討する。小児救急医療体制の指標の一つとして親の意識調査を用いる(平成13年度厚生科学研究費補助金 子ども家庭総合研究事業によって調査研究を行う) ・「小児慢性特定疾患の登録・管理・評価に関する研究」に学会として取り組む	・小児科医確保のための提言を行った ・小児科専門医制度発足のための環境整備を行った ・小児科学会各種委員会の活動を推進した ・小児医療の採算性を確保する努力を継続している ・小児救急医療の充実度についての患者家族および小児救急医療担当病院へのアンケート調査。第48回日本小児保健学会 平成13年11月17日 各自自治体ごとに小児救急医療体制の整備が行われているにもかかわらず、患者側からの評価は3年前と比較しても改善しておらず、地域による較差も解消していなかった ・大阪市における小児救急医療の現状と課題。日本小児科学会雑誌、105(12)；1380-1387、2001 公的システムと民間病院の活動を考慮したシステム作りが求められている ・大阪府時間外救急患者の動態について。プライマリケア学会雑誌、25(1)；29-35、2002 小児救急医療機関への人的ならびに経済的支援が必要である	・小児科医確保のための研究班を立ち上げる計画を小児科学会として全面的に支援する ・小児科専門医制度を平成14年4月から発足させるとともに、従来の認定医制度から専門医制度への円滑な移行を推進する ・小児科関連の診療報酬改定に努める ・女性医師の勤務しやすい環境整備に努力する ・初期臨床研修必修化に向けて小児科を必修科目にすべく努力するとともに、長期ならびに短期研修プログラムの充実を図る ・小児救急医療支援事業、拠点病院事業の成果を具体的に評価する ・住民のニーズを基にした地域の特性に対応した今後の小児救急のあり方を検討する ・小児科救急当直医の過労度の客観的評価と小児科入局者数からマンパワー算定の基準作成に取り組む

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）  
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
32.(社)日本小児科学会		・平成13年度厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業)「小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価に関する研究(主任研究者 加藤忠明)」に学会として分担研究者、共同研究者として積極的に参加し、研究を推進した。小児慢性特定疾患の全国集計、解析を継続することにより、小児慢性疾患の治療・療養におけるEBMの推進、QOLの向上が期待される	・平成14年度厚生労働科学研究(子ども家庭総合研究事業)「小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価に関する研究(主任研究者 加藤忠明)」に学会として積極的に取組む
33.日本小児看護学会	第11回学術集會を7/27・28の2日にわたり開催する予定「子ども、家族の主体化と専門職との協働 - 新世紀の小児看護へのアプローチ - 」と題し、演題発表の他に、子ども、家族を支える新たなリソースとしての虹の家(震災遺児のため癒しの家)、ファミリーハウス(慢性疾患をもつ家族のための宿泊施設)などの交流集會を計画している ・定期的刊行物(ニューズレター及び学会誌)の年2回の発行 ・地方での活動を活性化するための集會	学術集會 7月12・13日、神戸国際会議場において開催。約800名参加。「子ども・家族の主体化と専門職との協働 - 新世紀の小児看護へのアプローチ - 」というメインテーマで開催された学術集會において、講演やシンポジウム、交流集會、課題別検討会などのほか、子どもの在宅療養、障害や医療的ケアを持つ子どもの看護、家族支援や自助組織支援など一般演題発表を通して看護専門職の意識の向上を図った 東北地区研修會 日本小児看護学会では、今年度は、東北地区研修會において、「病気の子どもと家族の生活の支援」をテーマに患者家族や他の職種で構成されたシンポジウムを開催し、多くの看護職の参加を得て小児看護の専門職の意識の向上を図った	学会事業 ・小児救急看護における教育に関する課題を調査し、小児の救急医療の体制整備における看護の役割の明確化を図る ・医療的なケアを有するなど在宅療養の子どもや家族の支援について調査を行う 学術集會 「子どもと家族の主体性を支える看護 - 今、直面している困難感からの脱却 - 」をメインテーマに講演やシンポジウムを予定している。課題別検討会においても、患者家族の要望に焦点を合わせた話題や、医療処置を伴う子どもの退院後の生活支援など、小児看護における水準の維持・向上のための話題を多く組んでいる 地方會 日本の各地域ごとに地方會を開催し、小児の保健医療・看護の質の向上のための啓蒙活動を行う。テーマは、地方會ごとにその年度・その地域の必要話題をとりあげていく ホームページの活用 ホームページを活用して、学会の活動を発信していくと同時に、看護専門職間の情報の伝達・共有ができるよう整備する。将来的には、医療の話題だけでなく市民との対話も考えていく

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）  
 -小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
34. 日本小児救急医学会	<p>・6月学会での教育講演の開催などでの会員相互のレベルアップ</p> <p>・救急医療体制の検討の成果の厚生省や地方行政への報告と問題点などをマスメディアを通して国民的問題としての啓蒙を行う</p> <p>・学会誌の発行を行い、会員および他科医への教育啓蒙を行う</p> <p>・家庭用応急処置マニュアルなどを作成発行し、保護者の育児不安の解消を図っていく</p>	<p>第16回日本小児救急医学会にて、急性虫垂炎・腸重積症の統一治療ガイドライン作成に向けてのシンポジウム開催などによる救急医療の質の向上と全国均一化を図っている。</p> <p>実際に、救急医療体制の拡充に何が必要かをメインテーマに小児救急医療体制の在り方のWSを行い、会員相互の意識の向上と問題意識の啓蒙に努めている。</p> <p>学会評議委員会において、小児医療専門施設の小児救急医療への参画を促すための要望書を小児医療専門施設在住の自治体長へ送付するとともに小児救急医療体制への参画を申し入れている。</p> <p>学会前日(6/20)に「子ども達の事故と急病、およびその応急法」の市民公開講座を開催した。</p> <p>学会においても、ナース部門の充実を図り、子どものトータルケアの観点からナースの役割の重要性の再認識とその啓蒙を図った。</p> <p>小児救急医療の充実がいかに育児不安と直結しているかを再認識し、その観点からも、一般演題、WSにおいて、「診る医療」から「診せてもらう医療」への小児科医の発想転換の啓蒙を行い、安心して、且つ充分に相談できる小児救急医療体制のソフト作りへの足がかりを行った。</p>	<p>第17回日本小児救急医学会でも救急疾患の統一治療ガイドラインの作成と拡充のためのシンポジウムを継続して行うことを決定し、計画中。</p> <p>救急医学会会誌にシンポジウムで確立された統一治療ガイドラインを掲載し、広く会員および非会員の参考としていく予定。</p> <p>小児心肺蘇生トレーニング研修を学会期間中に行ってきたが、さらにその参加人員を増加し、若い小児科医・小児救急医に心肺蘇生技術の習得を図っていく予定である。</p> <p>小児救急医療体制の拡充とその核となる人材養成のために、小児救急医学会会員の小児救急医療体制への積極参加とリーダーシップを発揮するよう、理事会、評議委員会から会員への啓蒙を行っている。</p> <p>日本臨床救急医学会など成人中心の救急医学会において、小児救急医療での高次救急医療の役割、あるいは児童虐待と小児救急医療などのWSの開催が決定し、他科救急医にも子どもの養育環境と疾病や育児不安の存在への理解の啓蒙を行う予定。</p> <p>小児救急医療受診者の主訴の検討による、急病指導マニュアルの作成を図り、他科医における小児救急医療の実践においても、育児不安の解消が行いやすくするとともに、小児救急医療体制の拡充の一貫としての対応をしていく予定。</p>



**健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）**  
**-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-**

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
35. (社)日本小児保健協会	<p>・全国キャンペーンをさらに推進すること、全国47都道府県支部に小児保健協会として「健やか親子21」に対する取り組み、具体的行動を連絡し、このための体制を整備する</p>	<p>1. 幼児健康度調査の結果をまとめた                  2. 小児保健セミナーの開催                  6月24日(日)野口記念会館                  「予防接種の現状と今後」                  参加人数:300名                  3. 日本小児保健学会プレコンgres学習セッション                  * 21世紀は子どもの心の健康を育むためにどうするか(河合隼雄)                  * ケントからみた日本の子育て(ケント・デリカット)                  * シンポジウム:乳幼児の心の健康について:誰が、どこで、どのように指導するか                  東京ビッグサイト、国際会議場参加:800名、11月16日                  4. 第48回日本小児保健学会東京ビッグサイト国際会議場                  11月17-18日 参加:1800名                  シンポジウム                  * 21世紀の乳幼児健診はどのようにあるべきか                  * 小児の虐待は予防できるか                  4. 小児保健シリーズの刊行幼児健康度調査報告書                  5. 全国支部小児保健学会における講演並びにこのための支部活動                  6. 代表幹事団体として「健やか親子21第4課題推進委員会」を2回開催した                  8月14日、11月1日                  全国保健センター、参加:幹事団体、活動計画の検討をおこなった                  7. 健やか親子21:公開シンポジウム:未来の明るい家族のために、今、何ができるか」への参加:子どもの心の安らかな発達の促進:未来の明るい家族のために、今、何ができるか」への参加並びに14年度打合会の開催(参加:50名)                  :子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減                  14年3月12日JAホール、参加:250名</p>	<p>1. 小児保健セミナーの開催「小児のアレルギー」                  6月16日(日)、野口記念会館                  2. 第49回日本小児保健学会の開催、10月10日-12日、神戸、ポートピア国際会議場並びにプレコンgres学習セッションの開催                  3. 小児保健シリーズの刊行                  4. 小児保健研究 年6冊刊行                  5. 全国47都道府県支部における小児保健学会の開催と支部活動                  6. 代表幹事団体として健やか親子21、第4課題推進協議会の開催、幹事団体並びに協力団体と協力して、地域における周産期から思春期にいたる、育児不安の軽減、子どもの心の安らかな発達の促進、虐待防止を目的として地域全体に子育て支援システムを構築する                  平成14年度は8-10箇所のモデル地区の設定を予定している                  各地区における子育て支援システムの情報の普及のためのシステムも作成する予定</p>

**健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）**  
**-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-**

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
39. 日本赤十字社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「赤十字幼児安全法」講習の一層の普及を図るため、指導者の養成など指導体制の強化と講習に必要な教材などの整備を行う</li> <li>・「赤十字幼児安全法」講習のPRを積極的に行い、講習普及に努める</li> <li>・乳児院や関連団体等の施設との連携(地域住民へのサービス、施設の社会化)</li> </ul>	<p>指導体制の強化</p> <p>幼児安全法指導員資格交付伝達研修の開催 24回 311人</p> <p>幼児安全法指導員養成講習会の開催 3回 14人</p> <p>概要</p> <p>幼児安全法の指導員資格を交付するため、救急法指導員に対する伝達研修会を全国の各支部で実施した。また、新たな指導員の養成のための講習会を各支部で実施した教材の整備</p> <p>幼児安全法の一層の普及を図るため、視聴覚教材(ビデオ)の作製に着手した</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導体制の一層の強化を図るため、引き続き指導者の養成を行う</li> <li>○小さな子をもつ母親や子どもを預かる保育園、幼稚園等の職員を対象とした講習会を全国的に展開する</li> <li>○視聴覚教材(ビデオ)を活用するとともに、新たに小冊子を作製し、幼児安全法の普及を図る</li> <li>○小児の健全な発育・発達を実現させる社会的環境を整える意味でも、「赤十字幼児安全法」を広く一般に周知する必要性と認知度を深めるためにも、マスコミ関係各社と連携を図り、広く取り上げてもらえるよう働きかける</li> </ul>
41. 日本保育園保健協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国数カ所で集団保育保健研修を行い、研修助成金を交付する(現行)</li> <li>・日本保育園保健協議会(於盛岡市)研究成果を発表する(現行)</li> <li>・子育て環境の変化に対応して、産休明け保育、早朝保育、延長保育、夜間保育、感染症対策、健康支援一時デイケア、預かり薬の問題等を保健面から検討する(現行)</li> <li>・研究助成金の交付並びに表彰を行う(現行)</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学会の開催 第7回日本保育園保健学会 平成13年10月13,14日盛岡市開催 小川 英治 会頭</li> <li>2. 広報啓発事業             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 会誌の発行「保育と保健」第7,8巻(2巻発行)</li> <li>2) 「保育園保健ニュース」No.17,18,19(3号発行)</li> <li>3) ホームページの開設(平成13年4月より)</li> </ol> </li> <li>3. 助成事業             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域活動助成事業(助成金の支給) 中京地区保育園保健研修会 H13.6.17 奈良県国公立幼稚園教育研究会 平成13年度教育講演会 H13.8.27</li> <li>2) 研究助成事業 保育保健研究助成金の支給 帆足暁子他「保育所型病児保育施設の実態と課題」 保育保健賞の選定 全国保育園保健婦看護婦連絡調査研究グループ 「障害および疾病を持った園児の実態と保育職のかかわり」 田中哲郎、石井博子(国立公衆衛生院母子保健学部) 「最近の保護者の保育に関する考え方」 幼児の食と食生活に関する研究助成金</li> </ol> </li> <li>4. 事業への参加 1) 日本学会議事業 2) 厚生労働省「すこやか親子21」推進協議会</li> <li>5. 関連の各種研修会・研究会の共催並びに後援</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学会の開催 第8回日本保育園保健学会 平成14年10月26,27日 名古屋市開催 谷口アキ 会頭 愛知県勤労会館</li> <li>2. 広報啓発事業 1) 会誌の発行「保育と保健」第8巻2号 あと1巻予定 2巻発行 2) 「保育園保健ニュース」No.20,21もう1号(3号発行) 3) ホームページの充実</li> <li>3. 助成事業 1) 地域活動助成事業(助成金の支給)             <ul style="list-style-type: none"> <li>半田市保育園保健会講演会 H14.6.6 全国保育園保健師看護師連絡会「ADHDの理解」H14.11.30 小田原医師会保育園医師会研修「多動な児とのつきあいかた」H15.1.20</li> </ul> </li> <li>2) 研究助成事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>保育保健研究助成金 堀内久美子他(名古屋市立大学看護学部) 「保育園児の虐待事例の分析からみた育児支援のあり方に関する研究」 田辺正紀他(千葉市医師会保育所嘱託医師会) 「予防接種のカバー率からみた保育所(園)と幼稚園との比較」</li> <li>保育保健賞 東部どんぐり保育園他 「手掴み食を中心とした幼児の食生活について」 飯盛順子他(堺市立保育所) 「保育所における麻疹流行変遷と流行時期(平成12年度)のY保育園での発生状況」 幼児の食と食生活に関する研究助成金 「生活習慣病予防をふまえた 幼児の食生活の実態と課題に関する研究」 山田チヨ他(新潟県栄養士会長岡支部)</li> </ul> </li> <li>4. 事業への参加 1) 日本学会議事業 2) 厚生労働省「すこやか親子21」推進協議会</li> <li>5. 関連の各種研修会・研究会の共催並びに後援</li> </ol>

**健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）**  
**-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-**

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
43.(財)日本母子衛生助成会	・母子保健功労顕彰事業の運営	第23回母子保健奨励賞を開催 全国より15名の母子保健関係者を表彰	第24回母子保健奨励賞を開催 これからの母子保健を考えるシンポジウムを共催 新しい母子健康手帳の子育て支援現場での活用についてもテーマの中に盛り込む。
48.(社)日本理学療法士協会	・第4回母子保健福祉研修会を開催する ・インターネット上に保健福祉部のホームページを開設し、広く啓発活動、広報活動を行う	研修会の開催 2月24日 (社)日本理学療法士会館 42名参加 テーマ:子どもの不慮の事故とその対策 概要:健やか親子21の説明に始まり、子どもの不慮の事故への対策の重要性、具体的な事故予防対策、リスクアセスメントの方法等の講義に対して、「初めて聞く話が多く新鮮であった」「理学療法士としても今後取り組める課題で興味深かった」等の意見があった	・子どもの不慮の事故に対して、今後、理学療法士がどのようにかかわることがよいか、具体的な内容を進めていく
49.(財)母子衛生研究会	・事故防止教材「わが家の安心ガイドブック」(120万部)の作成配布、24時間電話情報「乳幼児の事故防止と応急手当」の提供、救命救急心肺蘇生VTRの作成・配布 ・母子保健指導者研修会等セミナー(250会場)の開催	・「わが家の安心ガイドブック - 乳幼児の事故防止と応急手当」配布(継続事業) 乳幼児の事故防止についての啓発教材として、市町村に配布(120万部)。両親学級、事故防止教室等で使用されている ・VTR「小さいのち、救うのはあなた！ - 乳幼児の心配蘇生法 - 」制作配布 乳幼児の心配蘇生法についての啓発用視聴覚教材として、市町村に配布(5千本)。両親学級、事故防止教室等で使用されている ・24時間電話情報「Pi - Po子どもの事故防止応急ダイヤル」(継続事業) 乳幼児の事故防止のポイント99項目をテープで解説。気になったら電話ですぐ情報が得られるため便利という声が多い	・「わが家の安心ガイドブック - 乳幼児の事故防止と応急手当」配布(継続事業) ・「乳幼児の救急救命マニュアル」配布 ・「海外での事故防止と救急救命」テキストの作成、配布24時間電話情報「Pi - Po子どもの事故防止応急ダイヤル」(継続事業)

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）  
-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
52. 日本小児歯科学会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会員に対し「健やか親子21推進協議会」に参加したことの周知徹底を図るため、学会機関誌を通じて次年度以降の行動計画に関する意見を求める</li> <li>・小児期の顎関節症に関するパンフレットを作成する</li> </ul>	<p>1) 平成13年度市民一般公開講座 平成14年2月7日(木)開催 福岡県歯科医師会館にて 会員を含め158名参加 テーマ: 21世紀は健康科学の時代</p> <p>2) 広報委員会にて 会員啓蒙用の「児童虐待における歯科医師の役割」リーフレットを検討、試作した。</p>	<p>13年度と同様であるが、追加事項として</p> <p>1) 第40回日本小児歯科学会総会及び大会において特別講演として 「児童虐待の現状と対応」を企画する。講師は杏林大学医学部法医学教室佐藤喜宣先生、国立成育医療センターこころの診療部部長奥山真紀子先生の予定。</p> <p>2) 「健やか親子21推進協議会」の参加第3,4課題グループの各事業に積極的に参加、協力する。</p> <p>3) 学術集会(シンポジウム)の開催 テーマ: 少子社会に対する取り組みの現状と展望 演者: 谷口 隆(厚生労働省児童家庭局母子保健課長) 前川 喜平(日本小児保健協会会長) 関口 基(日本小児歯科学会学術委員、地域保健委員) 平成15年2月11日(火) 東京医科歯科大学にて</p>
54. 日本新生児学会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1ヶ月健診の状況の把握、両親学級の状況の把握</li> <li>・妊娠、出産、育児の重要性を社会にアピールするための企画と実施</li> <li>・周産期医療のサブスペシャリティの構築とサービス人材の質・量確保</li> <li>・母子同室、カンガルーケア等の新生児管理の特質を検討し会員に周知させる・本年の学会総会で「心とテクノロジー」をシンポジウム、教育講演で取り上げ、学会誌に全文を掲載する</li> </ul>	<p>産科医及び小児科医の減少の対策および、減少に対応した産科、新生児救急医療システムの維持、向上をはかるための環境整備について、学会内の委員会で検討した。周産期専門医制度に関連して、日本小児科学会、日本産科婦人科学会、日本周産期学会などとの協議を開始した。</p>	<p>第38回日本新生児学会学術集会 平成14年7月14-6日開催予定、神戸国際会議場「周産期医療の新しいパラダイムを求めて」を主題とする。 教育講演: 周産期医療とIT、先天性心疾患外科治療の現状 - 特に緊急手術を要する新生児例について、招待講演: Quality control of neonatal medicine</p> <p>(1) 産科医及び小児科医の減少の対策および、減少に対応した産科、新生児救急医療システムの維持、向上をはかるための環境整備について検討をし、提言する。</p> <p>(2) 周産期医療のサブスペシャリティの構築とサービス人材の質・量確保のための方策を検討する。</p> <p>(3) 新生児死亡率、罹病率のさらなる改善と育児不安の軽減を計るために行政と連携して施設基準を見直して、提言し、また関連学会との統合的刊行物の作成をする。</p> <p>(4) 母子同室、カンガルーケア等の新生児管理の特質を検討し会員に周知させる。</p> <p>(5) 周産期専門医制度の確立と充実を目指す。</p>

**健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）**  
**-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-**

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
56. 日本小児神経学会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会に「社会活動委員会」を設置する</li> <li>・学会員に「健やか親子21」を周知するために学会誌に紹介文を書く</li> <li>・上記委員会、あるいは学会主催のシンポジウムを開く</li> </ul>	<p>小児神経学会の「国内渉外委員会」を「社会活動・広報委員会」へと発展的に改組し、次の3つのグループにわけ小児保健水準の維持・向上に寄与することとした</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身体障害者療育支援グループ: 主として障害児教育分野に取り組む</li> <li>身体障害者に対する研究支援グループ: 障害児に関する研究を学会が支援</li> <li>知的障害児を中心とした療育支援グループ: 障害医学的知識の啓蒙、教育との連携を推進</li> </ul>	<p>H13年度に発足した社会活動・広報委員会の3グループのリーダー、メンバーを決定し、実際の行動を開始する</p> <p>については全国8つのブロックにそれぞれの代表者を置き、地域と連携の濃い療育支援を行う</p> <p>については、研究会(シンポジウムなど)、研修会を開催し、学会と社会との連携を深める</p>
57. 日本食生活協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児歯科保健の啓発普及</li> <li>・子どもの健康とたばこ対策</li> </ul>	<p>&lt;小児歯科保健の啓発普及&gt;</p> <p>概要: 小冊子「子どもの歯と食生活」を発行し、全国母子保健主管課経由で6月4日の虫歯予防デー・3歳児健診時に配布</p> <p>&lt;子どもの健康とたばこ対策&gt;</p> <p>概要: 子どもの視点からたばこのない環境づくりを訴える「禁煙カレンダー」を作成し、全国関係諸機関に無償配布</p>	13年度に準ずる
58. 全国病児保育協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会発足10周年記念行事</li> <li>・病児保育実態調査と機能評価の基準作成(パイロット的に実施)</li> <li>・子育て支援事業を行っていく(時間を設け地域親子の集い)</li> </ul>	<p>施設長研修会</p> <p>病児保育室の自己評価を行うことを決めた パネルディスカッション「市町村及び医師会との連携」</p> <p>職員研修会</p> <p>病児保育の自己評価基準(案)を形態別に検討した</p> <p>保育士のための看護知識</p> <p>病児保育室の感染予防</p> <p>保護者との情報の伝達、共有、記録</p> <p>保育所型の病児保育</p> <p>その他</p> <p>病児保育を知ってもらうための広報活動 ニュースの発行、HPの更新・維持</p>	<p>施設長研修会</p> <p>自己評価基準(案)を形態別に最終案にまとめる</p> <p>職員研修会</p> <p>各施設で自己評価を行い、自己の施設が全国の病児保育室の中で、どのような位置を占めるかを把握し、質の向上に努める</p> <p>その他</p> <p>病児保育を知ってもらうための広報活動</p> <p>過去のメール、掲示板の内容を整理し、病児保育に関するQ&amp;Aをまとめる</p>
60. 日本外来小児科学会 (14年度取り組み) (15年度行動計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレット作成委員会よりリーフレットの作成と配布(約20種類)</li> <li>・おたふくかぜワクチン、インフルエンザワクチンについて臨床研究を展開中</li> <li>・会員からアドボカシー活動を集め、学会としてアドボカシーを展開する</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リーフレット作成委員会より、リーフレットの作成と配布(資料参照)</li> <li>2. おたふくかぜワクチン、インフルエンザワクチンについて臨床研究を展開中</li> <li>3. 診療ガイドライン作成検討会の設立</li> <li>4. 園・学校保健勉強会の開催</li> <li>5. 電子カルテ検討会の開催</li> <li>6. 事故予防検討会の設立</li> <li>7. 会員からのアドボカシー活動を集め、学会としてアドボカシーを展開 (現在は、麻疹の予防接種無料化の活動)</li> </ol>	上記の1-7について、継続して取り組み、その結果を文書、論文、冊子、本の形で公表していく。

**健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題3）**  
**-小児保健医療水準の維持・向上させるための環境整備-**

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
62. 日本小児 期外科系関連 学会協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・差し当たって最大の問題点が、小児医療、なかんずく小児の外科的医療の診療報酬改正であり、これにつき厚生労働省保険局医療課に対して適正な改正要望を展開する</li> <li>・それ以外の問題点、例えば6歳以下の小児に対する薬剤無適応問題などの解決に努力する</li> <li>・協議会の活動をより増大するために会員学術集会の増加を図る</li> <li>・健やか親子21推進協議会に参画し活動を共にする</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 協議会全体会議を平成13年7月2日に開催し、小児外科医療現場での様々な諸問題を討議した</li> <li>2. 小児医療環境整備のために、日本小児総合医療施設協議会とともに平成14年度診療報酬改正要望書を作成して厚生労働省へ提出した</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 協議会全体会議を開催する</li> <li>2. 日本小児総合医療施設協議会とともに、平成15年度診療報酬改定要望書を作成する</li> <li>3. 小児期外科関連学会・研究会の当協議会への参画を呼びかける</li> </ol>
63. のぞみの会 - アレルギー 児を支える親の 会 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員に対する「会報」発行を通じて正しい情報提供を図る</li> <li>・新入園、入学に役立つパンフレットの制作配布</li> </ul>		平成13年10月解散
67. 日本小児 循環器学会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓病管理指導表の具体的運用とその評価</li> <li>・軽症心疾患の予後調査の開始</li> <li>・生活習慣病研究委員会の発足</li> </ul>	<p>日本学校保健会と共同して、学習指導要領の変更にもともなう「心臓病管理指導表」の改定を行った。これは、日本小児腎臓病学会と共に行った「学校生活管理指導表」と名称を変更して用いられる。軽症心疾患の予後調査。生活習慣病研究委員会についてはまだ取り組んでいない。</p>	<p>新しい「学校生活管理指導表」を四月から用いはじめた。各職種の方々の意見を聴く予定である。上記について委員の人選を行っている。</p>
69. 日本臨床 心理士会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題への研修会の実施</li> <li>・全国大会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本臨床心理士会主催「子育て支援研修会」を開催・日本臨床心理士会会報に「健やか親子21推進協議会」を報告・各都道府県臨床心理士会「子育て支援担当理事」会議開催（各地の情報を共有）・各都道府県臨床心理士会で子育て支援研修会を開催</li> </ul>	13年度の取り組みを更に発展させる